

- 竹村健一の靈言「大逆転の時代」(2019年7月12日靈示) 担当:石田昭 2019年8月4日
- 1 草創期「龍馬の靈言」を発刊し、贈った。「生まれ変わったら竹村健一みたいな仕事を」と竜馬は語った。善川氏は「行儀の悪い人、お前は会うな」。私信では「二年前にお会いした」
  - 2 逆転の発想健在。江戸時代なら靈界を全員認知、今は違うから「まだ客がいっぱいいる」
  - 3 渡部昇一氏は迎えに来て、肉体は無い迷いだと説教を垂れた。渡部昇一靈言「8割無駄な生き方だった」初期の対談で「太陽の法」、さっぱりわからないと自状。「知とはあの世の知識なり、生前に智慧ありて、生まれ変わりの秘密知り、天国地獄の差を知れば、迷いの人生なかりけり」(先祖供養経)
  - 4 共産党系の思想人、科学者、エンジニア系、医者など、本人が気付くまで救済できない。
  - 5 総裁の肉体に入ると「道徳、礼儀」という規制感。「もっと面白く」は“逆の返し”あり。
  - 6 トランプさんは「悪名は無名に勝る」の哲学で大統領選のPRをやっている。対イランも半分ショー的。イラン攻撃は支持率が上がる。緊張状態を作っている。アジアには疎い。
  - 7 中国の関税問題、出したり引いたりで、習近平も翻弄されている。マスコミは小さいことは分かるが、大きなことは分からない。H氏報道(Will誌)や選挙報道を見てもそう。
  - 8 過去世トクビルの著「旧体制と大革命」が共産党内で読まれ、「フランス革命」を心配する声が高まっている件について:中国には嘘がある。貧富の差が世界一激しいのを国民に知られたら、政権は崩壊する。経済的には失速している、地方経済が持たなくなっている。バブル崩壊は現在進行形だろう。香港デモが潰せない時点で、他のデモも隠せなくなる。
  - 9 崩壊後の政体は「自由主義、資本主義系」と「国内分裂で、勢力争い」のどっちかだ。
  - 10 北温存で中国を倒す作戦。北問題に焦ってないのは、マンモスが倒れたら、ネズミは存在できないと見てるから。搖さぶってみたら中国が意外に弱いと見た、では本体攻撃で行こうと考えている。総裁の視点と同じだが、マルクス主義の看板を下ろさせるところまで視野にある。
  - 11 トランプ二期目には「本格的な中国解体」にはいる。中国の民主主義、議会制民主主義は、台湾や香港にモデルがあり、可能である。香港講演で「中国本土の香港化」指摘。
  - 12 「ウイグル、チベット、内モンゴルの独立による分解」「台湾・香港型政治を行き渡らせる」此の両方を同時にやらなきゃならないから、勢力をそぎながらやることになる。でも共産党員の8割は「政体が変わるなら、変わってもいい」と思っている。頑固なのは2割。
  - 13 その中の賢い幹部は海外に資産隠しをやっているが、アメリカは資産凍結して中国再建のために使うだろう。“アメリカ共産主義”を実践する形になるが、現実上そうなるだろう。
  - 14 これから「違った世界」が現れる。日本の親中派政党は数年で一気に崩れる面白い景色。
  - 15 新聞・テレビ・既成メディアが崩壊し、新しいものが出てくる。youtubeのような個人商店型じゃなくて、再び質の高い「プロフェッショナル」の時代が来る。「知の統合」ができる人は希少価値。池上彰・佐藤優など「情報のかき集め、整理整頓」型は飽きられる。
  - 16 実現党は一週間後(参院選後)瀕死の状態のようになる。しかしトランプさんがやってる間に(二期目)日本は変わってくる。みんなひっくり返ってくるから、鬨が原で戦うような爽快な気分が味わえるようになる。もうちょっと頑張ったらええ。(秀忠家臣鈴木正三の戦い)
  - 17 宗教はアヘン、とか宗教を信じて人は人類じゃない、と思ってるのが教育者にも官僚にも政治家にもいっぱいいるが、雪が降り始めたマンモスのようにダーッと死に絶える。
  - 18 今のマスコミ人、とくに左翼系は地獄へ行っているが、今後竹村が“大神様”になり、マスコミの天使の世界が作られる。維新の夜明け前が一番暗い、この十年が一番きついが、これから夜明けが来る。各人が自分で判断できるような時代が、近づいているから、粘れ。